

## 実践のまとめ（第3学年 道徳科）

佐渡市立金井中学校  
教諭 市橋 由希絵

### 1 研究テーマ

**道徳の授業を通して、自己の道徳的価値観と向き合うことのできる生徒の育成**

### 2 研究テーマについて

#### (1) 研究テーマ設定の意図

道徳科の学習指導要領では、

道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

ことが目標として記載されている。

これまでの自身の授業を振り返ってみると、活動を通して一般的な道徳的価値を再確認するような授業構成になっており、生徒自身がその価値とじっくりと向き合う活動が不足していたと感じる。そのため、他者との交流の中で多様な感じ方・考え方と出会い、自分の考える道徳的価値としっかりと向き合える生徒を育成するためには、どのような授業を進めていくのが良いのかを考えていきたい。

#### (2) 研究テーマに迫るために

##### ① 課題設定の工夫

これまでの生活の中で培われてきた自己の道徳的価値に気付くためには、生徒の中に葛藤を生ませたり、他者からの新しい意見に触れさせたりする必要がある。そのため、「良い・悪い」や「する・しない」といった二択を迫るような課題で終わるのではなく、なぜ自分はそちらを選ぶのかを考えさせる課題を工夫していきたい。

##### ② 活動時間の確保

生徒が自分の道徳的価値観と向き合うためには、自分の考えをまとめたり、他者の意見を聞いたりする十分な時間が必要である。また、授業内で得た新たな考えや変容をまとめる振り返りの時間もしっかりと確保したい。そのために、本文の通読は朝読書の時間で行い、授業では内容の振り返りだけにする。活動の優先順位をつけ、登場人物の気持ちを考える時間をできるだけ短縮することで、自分の考えと向き合う時間をしっかりと確保していきたい。

#### (3) 研究テーマにかかわる評価

・生徒がなぜ自分はそれが良い、悪いと思うのかを自分の言葉で説明できる。

### 3 指導計画

#### (1) 主題名

法やきまりを守るのはなぜだろう（内容項目C-10 遵法精神、公德心）

#### (2) 教材名

「二通の手紙」（あすを生きる3 日本文教出版）

#### (3) 主題設定の理由

##### ① ねらいとする道徳的価値

学習指導要領において、「遵法精神・公德心」では、以下を指導の観点としている。

法やきまりの意義を理解し、それらを進んで守るとともに、そのよりよい在り方について考え、自他の権利を大切にし、義務を果たして、規律ある安定した社会の実現に努めること。

法やきまりは、集団の秩序を守り個人の自由を保証するものである。中学校段階では、法やきまりがなぜあるのかという、それらの意義について理解できるようになる。一方で、それらは自分を拘束するものであると捉えたり、判断が揺らいだ時にはその意義に立ち返ることができずに破ってしまったりすることも多い。自分のしたいことと、きまりが相反したときに、安易に自分のしたいことを優先させてしまう場面もある。

本時では、きまりの意義を考えながら、自分のしたいことときまりを守ることの両立ができるよう、よりよい方法を見つけていく活動を行う。きまりの意義に立ち返りながら、きまりがなぜあるのかを考えさせ、きまりをどのように守っていくのかの判断が出来るようにしていく。

##### ② 教材と生徒

授業規律や校則をきちんと守ることのできる生徒が多いクラスである。しかし、きまりごとに対して不満を漏らすことや少しくらいならいいだろうといい加減になる場面も見られる。

本教材では、動物園で働く主人公・元さんが規則を破って幼い姉弟の願いを聞き入れたことにより、多くの職員を巻き込む問題に発展してしまう。元さんの行動は、幼い姉弟を思いやりの行動であると共感する生徒も多くいると考えられる。「きまりは守らなければならない」と「幼い姉弟を喜ばせてあげたい」という二つの道徳的価値が生まれる場面であり、生徒の中に葛藤を生み出すことのできる教材である。この場面をどのように対処していくのかを考えることで、自分の道徳的価値と向き合うことができる。

「きまりがあるから守る」という考えから、「それぞれのきまりには意義がある」と考えることで、判断が揺らいだ際に法やきまりの意義に立ち返り、自分や集団のためによりよい判断をしていきたいという道徳的実践意欲を高めたい。

#### (5) 本時のねらい

「法やきまり」が何のためにあるのかを考えることを通して、それらを主体的に守るとともに、規律ある社会を築こうとする道徳的実践意欲を高める。

(6) 本時の展開

	□学習活動	○主な発問 ・予想される児童（生徒）の反応	◇留意点
導入 10分	<p>□教材を振り返りながら、内容や教材の中心を確認する。</p> <p>□元さんの行動にたいする自分の立場を考える。</p> <p>□本時の学習内容を確認する。</p>	<p>○このお話の中心にいた人物は誰ですか。</p> <p>○元さんは、どのようなことをしましたか。</p> <p>○結果はどうなりましたか。</p> <p>○元さんの「幼い姉弟を動物園に入れてあげたい」という気持ちに共感できますか、できませんか。どちらかに手を挙げましょう。</p> <p>○今日は、「幼い姉弟を喜ばせてあげたい」という気持ちと「きまりを守ること」をどうやったら両立できるのか考えていきましょう。</p>	<p>◇朝読書の時間に本文を読んでおくよう指示をする。</p> <p>◇元さんの気持ちに共感するかしないか、どちらかに手を挙げて答えさせ、全体で共有する。</p>
展開 30分	<p>□動物園のきまりについて考える。（10分）</p> <p>□自分の考えをワークシートに記入する。（5分）</p>	<p>○なんのために、動物園には「入園終了時刻」と「小学生以下は保護者同伴」というきまりがあるのでしょうか。</p> <p>①入園終了時刻</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・動物の世話や閉園作業をする時間をとるため。</li> <li>・園内が暗い場合は危ないから。</li> </ul> <p>②小学生以下は保護者同伴</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事故や事件を防ぐため。</li> <li>・危険な動物との接触があるかもしれないから。</li> <li>・時間をしっかり考えることができる人がいないといけないから。</li> </ul> <p>○「幼い姉弟を喜ばせてあげたい」という気持ちと「きまりを守ること」を両立させるために、あなたが元さんと同じ立場だったら、どのようにしますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一緒に回る。</li> <li>・親に連絡をして、次の日に連れてきてもらう。</li> <li>・次の日に自分も一緒に入って案内する。</li> </ul>	<p>◇どちらのきまりにも意義があることを確認する。</p> <p>◇自分で考えつかなかった意義があった場合、色ペンで記入させる。</p> <p>◇簡潔でもいいので、自分の意見を書けるように支援する。</p>

	<p>□班でよりよい方法になるように意見を交換しながら、考えをまとめる。(8分)</p> <p>□班の意見を発表する。(7分)</p>	<p>○班の人と意見を交換し、両立させるためによりよい方法を考えましょう。</p> <p>○班の全員が納得できる結論を紙に書きましょう。</p> <p>○班の意見を発表してください。</p>	<p>◇「入れる」「入れない」という結論だけでなく、どのようにして入れる、入れないのかまで具体的に考えるよう指示する。</p> <p>◇A3の紙を用意し、そこに方法と理由を書かせる。</p> <p>◇他の班の意見でいいなと思う意見があれば、記入させる。</p>
<p>終末 10分</p>	<p>□本時の振り返りをする。</p>	<p>○次の視点で振り返りをしましょう。</p> <p>①これからきまりとどのように向き合っていくか。</p> <p>②今日の授業で感じたこと。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分のためにも周りのためにもきまりを守っていきたい。今日の授業できまりを守りつつも自分のしたいことを解決する方法を考えていきたいと思った。</li> <li>・きまりについてそれを破るとどうなるのかまで想像したい。何のためのきまりかを考えるときまりを破らなくても良い方法が見つかるので、きちんと考えていききたい。</li> </ul>	<p>◇自分のこれまでを振り返らせ、今日の授業を受けてこれからどのように法やきまりと向き合っていくのかをまとめさせる。</p> <p>◇時間があれば、何人かに発表させる。</p>

## (7) 本時の評価

### ① 評価の視点

- ・きまりの意義について考え、互いの意見を尊重しながらよりよい方法を見つけようとする発言や記述があったか。
- ・これから自分がきまりとどのように向き合っていくか、自分の言葉でまとめているか。

### ② 評価の方法

- ・ワークシートへの記述
- ・話し合いでの発言

## 4 実践を振り返って

### (1) 授業の実際（指導の実際）

#### ① 課題について

本時は、葛藤を生ませるために「姉弟を喜ばせたいという気持ちと、きまりを守ることの両立をするためにあなたならどうするか」という課題を中心にして授業を行った。どのような判断をするのが最善か、悩みながらも考えたり話し合ったりする生徒の姿が見られた。

この課題に対し、六つの班の中で五つの班が「大人（自分もしくはスタッフ）と一緒に入って回ってあげる」という主旨の答えを出した。残りの一班は、「翌日入園時間内に動物園に来てもらい、自分が一緒に回る」という答えだった。安易に「かわいそうだから入れてあげる」、「きまりだから帰ってもらう」という答えを選ぶのではなく、きまりの意義に立ち返りながら自分たちの納得する答えを考えさせることがねらいだった。生徒の答えを見ると、「小学生以下は保護者同伴」の意義については深く考えられたが、「入園終了時刻」の意義については中々考えが及ばなかった部分があると感じる。

生徒からは、「一緒に見て回る以外の方法がない」「両立はできない」という声もあがった。大半の生徒が「姉弟を喜ばせたい」という元さんの気持ちを優先し、それを達成させるためにどうしたらよいか、という思考になっていたと考えられる。

本教材の内容項目である「遵法精神」を学習するためには、授業の最後で「きまりを守ること」に立ち返る必要があった。

方法	理由
次の日に、4時より早く来てもらって、自分が一緒に回る。	4時より前に入園することと、自分が子ども達と一緒にいることで、2つのきまりを守ることができ、2人の願いを叶えることもできると思っ たから。
1 班	

方法	理由
元さんが一緒に行く	・まごにならない ・閉園時間を守れる ・動物の紹介ができる
6 班	

#### ② 授業の流れについて

朝読書の時間に本文を読んでおき、授業中にプレゼンテーションソフトを使って内容の確認を行った。本時の中心になる部分にポイントを絞って確認を行うことで、全体で内容を共有でき、時間の短縮をすることができた。本時は、生徒に「どんな話でしたか。」など問いかけながら確認したが、短い話や内容のおさらい程度であれば教師主導で確認すると、さらに短縮できると考える。

一方で、自分の考えをワークシートに記入する活動では、予定よりも時間がかかってしまった。原因としては「気持ちときまりを守ることの両立」が難しい課題であったことが考えられる。振り返りを見ると、「実際に私が元さんの立場だったら、姉弟を園に入れ、自分が一緒に回るという判断は下せないと思う」や「気持ちときまりを両立することは難しい」などの考えを書いている生徒も見られた。

また、生徒への課題の説明を細かく行いすぎたことも原因として考えられる。ICTを活用した簡潔な課題提示の方法や、わかりやすい課題の設定をする必要がある。

記述 (①これからきまりとどのように向き合っていくか。②今日の授業で感じたこと。)

① きまりは、私たちの安全を守ったり、人々がお互いに気持ちよく過ごすためのものなので、できる限り守ってみたいと思った。②本当に実際に私が元さんの立場だったら、姉弟を園に入れる、そして自分が一緒に回ってあげるといった判断は下せないと思う。ルールを話して、「ごめんね」という形で2人を帰すと思う。

記述 (①これからきまりとどのように向き合っていくか。②今日の授業で感じたこと。)

①「自分がこうしてあげたい」という気持ちと、「きまり」でこれから葛藤することもあるかもしれないが、その時は誰かと話し合っ、て決めたいと思いました。

②気持ちときまりの両立はとても難しいんだなと思いました。

## (2) 研究テーマに関わって

### ① 課題設定の工夫

本時は「幼い姉弟を喜ばせたい」という思いやりと、「きまりを守る」という遵法精神の葛藤を想定して課題を設定した。思いやりときまりの関係を考えながら、きまりの意義について確認することができれば、内容項目にも沿った授業になったと考える。

実際に生徒の意見を見ると、「両立させる」という言葉を使ったことで、「姉弟を喜ばせるために、きまりをどのように解釈するか」という思考で話し合いが進んでしまった班も見られた。授業中に生徒から出た「両立は難しい」「両立できない」という発言を拾い、「どうして難しいのか」「どうして両立できないのか」という問い返しをすることで、生徒の考えが深まったのではないだろうか。授業中の生徒の反応を見て、追発問することを想定しておく必要がある。

### ② 活動時間の確保

テーマである、生徒が「自己の道徳的価値観と向き合う」ためには、振り返りの時間が重要になると改めて感じた。朝読書の時間に本文を読ませ、全体で確認したい部分をプレゼンテーションソフトで振り返るといった取り組みは、教材の内容が増えてくる中学校の道徳において時間短縮につながる有用な手立てであった。

しかし、今回の教材において、登場人物の元さんの心情を考える活動は、欠かせない活動であった。生徒に自分の意見を考えさせる活動を中心にして授業を組み立てる際、登場人物の心情の読み取りや確認させたい事項をどれだけ簡潔に行えるかが重要になると感じた。50分という限られた時間で十分な活動時間や振り返りの時間の確保をするためには、教材の中のポイントを吟味し、活動内容を精選していくことが今後も必要になる。

## (3) 今後の課題

これからも、生徒自身が自己の道徳的価値を見つめることのできる授業づくりに取り組んでいく。今回の授業実践では、課題設定と活動時間の二つを中心に取り組んだが、どちらを工夫するにしても教材研究と生徒の実態把握が必要である。教材で何を中心に活動していくのかを吟味するためにも、教材研究にさらに励みたい。また、生徒自身が授業前後での変容を見られるよう事前アンケートも行っていきたい。